

ふじやま だより

第11号

発行 2003年

11月15日

本郷

ふじやま公園

運営委員会

文化財特別記念公開を終えて

事務局長 辻 登

文化の日に合わせて11月1日～3日までの短い期間でしたが、市の文化財である旧小岩井家住宅の公開と共に小岩井家に伝わる、古文書・亜墨利加船来航図・異国船整備の図伝世品の陶器〈ペリー持参〉などを特別公開、長屋門には民具を展示いたしました。



11月1日には特別記念講演会として、小岩井家文書から『鍛冶ヶ谷村と海防』に係わる文書の解説講座を開催いたしました。講師は、県立金沢文庫の鈴木良明学芸課長にお越しいただきました。

18世紀後半、ロシアやイギリスなど異国の船が日本海に現れ、通商を求めてくることが多くなります。これに対応して国防の重要性が唱えられ、幕府も寛政年間から沿岸の諸藩に対し海防の強化を命じます。相模国鎌倉郡を領地としていた川越藩も江戸湾の警備を命じられ、その任に就きます。川越藩は三浦半島警備のため鎌倉郡の村々に使役を要請します。

文書によると、『御出夫人足差出』御人数と記載の中に、大津御人数・同後詰として、腰越村・長谷村・材木座村と共に鍛冶ヶ谷村の差し出すべき人足の割り当てが書かれています。

中之村15人・鍛冶ヶ谷村17人とあり、「異国船渡来の節は御箇所にて火急に駆けつけるよう心がけて置くよう」と記載されています。



当時、鍛冶ヶ谷村は働ける人が少なく半数近い人を人足にとられることになりました。

降って沸いたような黒船来航の中、海防に係わる使役を強いられた鍛冶ヶ谷村の苦労の様子を知ることが出来ました。

講演会の参加者は26名でした。これからも文化財を大切に、文書や民具から昔を学び今を知りたいと思っています。

ご協力いただきました、小岩井家と教育委員会 文化財課に御礼申し上げます。



部会便り

里山部会

竹炭と竹酢液



里山部会 永田隆一

前号で書きましたように、本郷ふじやま公園では竹の間伐材を活用するために、竹を焼いております。従来は、ドラム缶型の窯で焼いておりましたが、設置して2年経ち、一部破損したため、現在、耐火煉瓦を使った本窯を建設中です。11月中には完成する予定です。竹炭をつくるには、①炭材を窯に詰める（窯詰め）の工程、②炭を焼く（炭焼き）工程、③焼き上がった炭を窯から取り出す（窯出し）工程と三つの工程が必要です。

- ①の工程では、竹をドラム缶の長さ（75cm）に切って、四つか五つに割って、節をおとし幅4～7cm位の竹べらを作り、それを隙間があかないように窯の中にぎっしり詰めます。竹を切る時には竹切り鋸を使い、割る時には竹割り器を使い、節落としには鉋をつかいます。
- ②の工程では、窯の焚き口以外の所は全て粘土で密封し、焚き口から薪を燃やします。朝早くに火をつけ、夕方遅くまでかけて一日がかりで焼きます。焼き始めは、竹に水分が残っているため、水蒸気が混じった白い煙が出ていますが、窯の中の温度が上がり、竹に火がついて燃えはじめると青紫色の煙に変わります。竹自身が燃え始めると焚き口をふさぎ、中の竹を蒸し焼きにします。中の温度がどんどん上がり、煙の色が透明になってくると、焚き口だけでなく煙突にも蓋をして、完全に密封します。
- ③の工程では、窯の蓋を開けて、中の炭を取り出すのですが、②の工程の後、自然冷却して外気と同じ位の温度まで下げてから蓋を開けないと、温度が高いと蓋を開けたとたんにより点火して、せっかくの炭が灰になってしまいます。

うまく焼けたときは嬉しいものですが、そうでない場合はがっかりです。最初の頃は失敗も結構ありました。

副産物としてできる竹酢液は農芸部会が無農薬栽培を行っていますので殺虫剤として利用しております。

工芸部会

体験教室『ハーブの香りにさそわれて』

工芸部会 佐々木 信子

近年ハーブの栽培を楽しんでいる方々がふえており、立派に育ったハーブの活用方法が解らないと云う声が聞かれます。形式などにとらわれず、日常生活に利用されることを目的にハーブの体験教室を全5回の講座で楽しみました。

第1回暮らしを楽しむアロマセラピー、第2回私のインテリア、第3回アレンジメントで夢を、第4回癒しの食卓、第5回アースカラーに包まれて、と変化に富んだ内容で終了しました。

ハーブと云う心地よい響きは私たちに夢と安らぎをあたえてくれます。ふじやま公園の工作棟もやさしい香りに包まれリラックスしたひとときを講習に参された方々と楽しく過ごすことができました。

農芸部会

季節を感じながら活動しています!



～ 山々と共に暮れゆく木の実かな 龍太 ～

農芸部会 立川 巴子

四季折々に移ろう風景は、そこに佇む長屋門をいつも風情あるものにし、今は柿の照葉が茅葺き屋根に彩を添えています。

朝は清々しい空気を吸って作業前の準備体操をします。会員の方のご指導で太極拳を少しずつ・・・。寒い時期には陽だまりで、暑い夏の日には木陰で涼風を受けながら。肌で、耳で、目で季節を感じながらです。

農作業は自然との戦いです。天候が災いしたり、また無農薬なので堆肥作りや害虫駆除も大変です。何もないところからの出発でしたがみんなの知恵や、技術、アイデアを出し合っとなかなかの畑、花壇になってまいりました。

同好の仲間との作業では話の輪も広がり、教えていただくことも沢山あって楽しいひとときです。この時期、寒さに強い野菜が青々と育ち、地下では春の草花の芽が動き始めています。私たちは来春に向けて畑の作付けに、花壇の構想にと話し合いを進めているところです。

今年の経験を生かし、更に「ふじやま公園」に相応しい畑、花壇に育てて生きます。

土いじりのお好きな方と一緒に作物の生長を楽しみませんか? 毎週月曜、木曜の10時から12時まで活動しています。

いろり守の会



焚火の思い出



いろり守の会
炉山人

40～50年前、小学生時分の冬は、今より寒さが厳しかったと思う。登校間近になっても、暖かい家の中から出られずモタモタしていると、その内、近くの空き地で焚火が始まる。その面白さにつられてランドセルを背負って飛び出す。

その焚火にあたりながら、近くの小石を火の中に放り込む。その焼けた石を、母がボロ布に包んで、ズボンのポケットに入れてくれる。ポケットに手を突っ込んで石の暖かさをまさぐりながら学校へと向かう。焚火を見ると、小石の暖かさが手の中によみがえる。嗚呼・・・

いろり守りの会では会員募集中です

12月のいろりの焚火の日

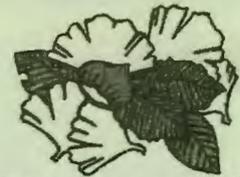
12月10日(水) 12月21日(日) 12月25日(木)

各日とも 9:30～12:00

入会希望の方は、上記いずれかの日に公園古民家のいろり端までお出掛けください。

詳細は、その際説明させていただきます。

12月21日(日)には、いろり端の紙芝居も予定しております。



1 各種教室

L/N	教室名	開催日時	内容	定員	材料費	申し込み期限
1	刺し子 (全3回)	1月14日(水) 13:00~16:00	小物敷 34cm×34cm	12名	¥800	12月25日 必着
		2月11日(水) 13:00~16:00	トートバック 23cm×21cm	12名	¥1,000	12月25日 必着
		3月10日(水) 13:00~16:00	テーブルセンター 81cm×34cm	12名	¥1,000	12月25日 必着
2	粘土工芸&創作人形 (全3回)	1月16日(金) 13:00~16:00	雛人形と花ブローチ 	12名	¥2,500	1月10日 必着
		2月6日(金) 13:00~16:00				
		3月12日(金) 13:00~16:00				
3	第4回茶道体験	1月17日(土) 13:00~16:00	講師:裏千家 志村宗道	12名	¥500 茶菓子	12月25日 必着

- ◎ 定員 応募者が多数の時は抽選とさせていただきます。
- ◎ 申し込み方法 往復ハガキに必要事項を書いて、申し込み期限までに本郷ふじやま公園まで

2 鏡開きと子供昔遊び

L/N	行事名	開催日時	内容	定員	参加費
1	鏡開き	1月11日(日) 13:00~	お汁粉販売 	150名 (先着)	¥100
2	子供昔遊び	1月11日(日) 10:00~15:00	・栄区歴史双六 ・羽根突き ・剣玉 ・お手玉 ・子供百人一首	自由参加	無料 

お知らせ

- ・休館日 : 12月3日(水) ^火 ^水
- ・次回クリーンアップ作業日: 12月12日(水)、16日(水) 10:00~11:00
- ・年末・年始休館日 : 12月29日~1月3日まで(平成16年は1月4日より開館しております。)

古民家ゾーン ご利用案内

- ◎ 開館時間 : 9:00~17:00
- ◎ 休館日 : 毎月第1水曜日(祝日の場合はその翌日)
- ◎ 入館料 : 無料
- ◎ 最寄のバス停: 中野町又は鍛冶ヶ谷町(神奈中バス)

- ◆ 本郷ふじやま公園運営委員会
〒247-0009
栄区鍛冶ヶ谷 1-20
Tel:045-896-0590
Fax:045-896-0593
- ◆ 緑政局中部公園緑地事務所
Tel:045-711-7802
Fax:045-712-6260

広報部会員募集中